



峰山

旧牧野村のほぼ中央部にある標高570mの峰山。この山の頂上には、古峯神社が建立されています。祭神は日本武尊で、開運、火防などあらゆる心願成就を導く神として、地域の人々に崇敬されてきました。頂上近くの参詣道に「風神」「竜神」「水神」の3つの石塔が造立されています。共に五穀豊穡を願って建てられたものと思われます。



中尾八幡神社

牧野の村社。応神天皇が祭神である。建暦元(1211)年に大鐘地区に建立したが、嘉禄二年に中尾地区の現在の場所に遷宮されている。現社殿は下野(現在の栃木県)の宮大工、大森三左エ門棟梁により造営されたもの。寛保二(1742)年着工、延享元(1744)年に落成と伝えられる。大正十二(1923)年の関東大震災で倒壊したが、鳥屋の棟梁 渡辺和?が旧の如く竣工させたという。なお、神木である二本の大杉は『中尾八幡の大杉』として、「かながわの名木百選」に選ばれています。



神原家長屋門

神原家の先祖は今川義元の重臣で駿河蒲原城主をつとめた蒲原宮内少輔氏徳です。戦国末にこの地に至り、慶長九年に帰農したと伝えられています。住宅は長屋や蔵などのある高台にある岩のような壮大な茅葺民家でしたが、現存する歴史的建造物は国登録有形文化財となっている長屋門のみです。



大石神社の回り舞台

大石神社は天平時代の創立といわれています。現在の本殿は宝暦八(1758)年に建立遷宮されたもの。回り舞台付きの拝殿が明治二十九年に建立され、篠原地区の地芝居は年々盛大に行われるようになったそうです。



土平治騒動

天明二(1782)年から6年間続いた大飢饉の折、巨利を得ていた造り酒屋に対して起こした「土平次騒動」は、近世相模国における最大規模の一揆・打ちこわし騒動として知られています。篠原エリアにある立派な長屋門の家は、その土平次の実家です。



牧野。共鳴するやまなみ。

山が連なる。名前のある山もあれば、無名の山もある。いくつかのささやかな頂を載せる尾根筋は、柔らかにうねる曲線を繰り返し、どこまでも続いてゆく。

ランダムで不可思議で不均等な曲線と曲線のあわいを埋めるように、点在する集落。その集落それぞれに、紡がれ続けた暮らしが、ある。その微光は、燦燦歴々と営まれてきたものだ。

微妙に異なるディテールを秘める大小の集落は、尾根を越え谷を挟み、それでも緩やかに干渉しながら、しっかり繋がり、常に響きあい、こだまする。緩やかだからこそ、根の部分でつながっている、という感覚。それは集落と集落の距離感であり人と人との距離感であり、さらには人と自然、自然と自然の距離感にもつながってくる。

あの山に登ろう。あの川を越えよう。集落と集落を結んで歩こう。

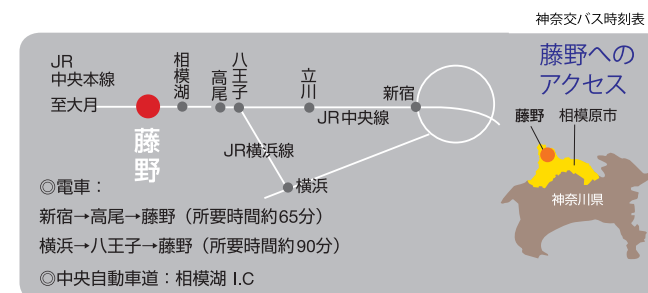
牧野に足音を残せば、きっとどこかがつながる。何かが響く。

三宅 岳 (牧野在住・山岳写真家)

牧野地区への行き方

牧野方面へは、バス利用

JR 藤野駅から「藤野やまなみ温泉」「奥牧野」行きを利用。バスの時刻表は携帯で右のQRコードにアクセスしてご確認ください。



問い合わせ先：「藤野観光案内所・ふじのね」TEL: 042-687-5581まで

写真：三宅 岳・他 発行：藤野観光協会 発行日：2023年3月



藤野エリアの南部に広がるのが牧野地区。昭和の半ばまでは牧野村という一つの自治体でした。標高570メートルの峰山を中心に、石老山・石砂山・舟山・入道丸といった名峰が連なる山間の地域です。古くは名馬の産地であり、また木炭や養蚕でも栄えた地。現在も、豊かな緑に癒される、自然と文化に恵まれた地域です。

JR 藤野駅となりの「藤野観光案内所・ふじのね」では、「藤野15名山」のパンフを用意しています。ぜひ、手にとってご覧ください。

